



必要な選択

貧困や暴力、絶望的な疫病に悩まされ、親が子どもに夢や希望を託せなくなっている、乳幼児のケアが最もむずかしい国で、それが最も必要になっている。世界経済が急速に拡大するなかで、大多数の子どもがなお貧しい暮らしをしている。世界が平和への希望を抱くなかで、利益のための紛争や民族間の争いが起こって子どもの心身を危険にさらしている。また、HIV / エイズが家族を破壊し、子どもたちが独力で生きることを余儀なくされている。

親や保護者は毎日ひとときも休まず子どもの将来のために苦闘しているが、危機や生活の苦しさに圧倒されて、乳幼児のためのエネルギーをほとんどなくしていることがあまりにも多い。大人が自分の暮らしに疲れ果てると、若い子どもが生存し、成長し、発達する権利が脅かされる。

だが目の前に立ちふさがるそうした障害は、決して克服できないものではなく、人々は子どもをケアする方法を見出し、生みだそうとしている。

UNICEF/99-106/Thomas

写真：1999年の東ティモール危機のなかの母と子。



タンザニアのフェプロニアという35歳の女性は7人の子どもを産んだ。そのうちマルサ(10)、アンジェラ(8)、コルマン(6)、グレース(9カ月)の4人が生き残った。2人の息子は7つのときに死んだ。1人は黄熱、1人は原因不明の病気による死だった。もう1人は未熟児で、生まれてすぐ死んだ。彼女の夫のダマス(42)はコーヒー農園の日雇い労働者で、家族は年約8万シリング(125米ドル)の現金収入で暮らしている。

フェプロニアとその家族は木と泥とタンでできた堀って建て小屋で暮らしている。家のまわりは赤土のぬかるみで、フェプロニアや夫や子どもはだしの足にねばりつく。フェプロニアは毎日1時間もかけて3キロ離れたところにある小川に水を汲みに行き、その間ずっと、家に残した幼い子どものことを心配している。だが彼女にとっての最大の心配は、数頭の乳牛に食べさせる草を集めるために3時間以上もの間、赤ちゃんを家に残しておかなければならないことである。その間、グレースの世話は午前の学校から帰った8歳の娘に任されている。

多くの国の多くの母親がそうであるように、フェプロニアも貧しく、ほとんど支援を得られないなかで毎日、朝から晩まで子どもに食べさせ、子どもを守るのに苦闘している。朝6時に起きて朝食のかゆをつくり、乳牛にやる草や家族のための水や食糧を集め、調理に使う薪を探す。毎日、小さい子どもを小川に連れて行って体を洗う。雨期にも子どもを清潔にしておきたいと思っているが、とてもむずかしい。彼女が暮らす村の住民の多くがそうであるように、彼女の家にも常設のトイレがないので、家の近くを渦を巻いて流れる泥流に便が混入する。

フェプロニアは朝から晩まで家族のために働いている。仕事には果てしが無い。彼女は髪を短く刈ったたくましい女性で、頭に重い荷物を乗せて、背筋を伸ばして何時間も歩く。家に帰ると食事の支度をし、掃除をし、家族の世話をする。小さな家庭菜園の手入れもする。仕事の合間に赤ちゃんに授乳する。1日の仕事が終わりに、子どもを寝かせてから、祈りの言葉を唱えて眠りにつく。

世界の無数の女性と同様に、彼女の家庭での生活は安全ではない。彼女は夫を恐れていて、彼女によると、夫は酒を飲み過ぎ、彼女を殴ったり蹴ったりする。

男性優位と女性の隷属の種子はフェプロニアの家族にも撒かれている。8歳の内気なアンジェラは母親が畑で働いている間、親指をしゃぶりながら赤ちゃんの守りをする。額に深いしわをよせ、ものうげな眼をした10歳のマルサが学校から戻ると、アンジェラは皿を洗い、乳牛のための草刈りを手伝い、菜園で働く。アンジェラが働いている間、フェプロニアの息子は何をしているだろうか。コルマンはふくよかな顔に茶目っ気のある笑みを浮かべて外で木登りをして遊んでいる。

世界の11億人の人々と同様にフェプロニアも安全な水を手に入れない。毎日、汲んできた水を煮沸して、子どもをコレラや水によって伝染する病気から守らなければならない。家族は世界の23億人の成人と同様に、清潔なトイレを使えない。家にトイレやきれいな水がないので、フェプロニアとその家族は衛生的な暮らしをするのがむずかしく、いつも下痢やその他の病気の危険に脅かされている。トラコーマは子どもや母親に感染しやすく、何度も感染すると失明することもある。

家族は小さい菜園と数頭の乳牛をもっているが、貧しくて十分に栄養をとることができない。年長の3人の子どもは頭に栄養不良の兆候を示す斑点状のはげができています。最年長のマルサは眼が落ちくぼんで黒ずみ、眼の下が膨れている。

2448人の住民が暮らすこの村では、フェプロニアの子どもたちだけではなく、どの子どももみな似たような状態である。この村には営業許可を受けた酒場が10軒あるが、1995年以降は子どもの給食センターがない。子どもたちは保育サービスを受けられず、しばしば長い時間、何も食べずに過ごし、それが8時間も続くこともある。

乳児以外の子どもは子どもの大敵の6つの病気の予防接種を受けているが、フェプロニアとダマスは目の前で自分の3人の子どもを死なせた。家には毎週保健員が訪れ、村から1キロ以内のところに伝道病院もあるが、夫のダマスは「病院はあっても金がないので、その玄関で死ななければならない」とぼやく。

10歳のマルサは小学校の2年生で、8歳と6歳の2人は毎朝、2時間就学前教室に通っている。親たちは就学前教育の価値を認めて、子どもが数を数え、歌を歌い、物語を語れるようになったと自慢する。だが痩せてだぶだぶの服を着たダマスは、子どもをもう学校にやれなくなるのではないかと心配している。ダマスによると、ダマスが子どものころは、タンザニアの教育は無償で、学校給食もあった。だがいまでは教科書や制服は有料で、昼食も自弁である。ダマスは教育が子どもの未来を明るくするが、金のない者にはチャンスはないと思っている。

ECDの課題

ECDは責任ある指導者にとって最善の政策であるにもかかわらず、なぜすべてのコミュニティで、すべての国でECDへの投資の決定がなされてこなかったのだろうか。

その理由の一つは貧困という無情な敵である。世界が未曾有の繁栄を謳歌するなかで、世

界銀行の推定では1998年現在、5億人以上の子どもを含む12億人が1日1米ドル以下での貧しい暮らしをし⁽¹⁸⁾、最貧国は教育や保健サービスやインフラの改善に使うことのできる資金を債務の返済に充てている。開発途上国は世界銀行やIMF(国際通貨基金)などの融資機関や先進工業国から2兆米ドルもの資金を借りている⁽¹⁹⁾。国を貧困から抜けださせるための融資 - - その資金がいまECDに投資されれば1世代の間に実現が可能である - - が逆に国

貧困が家族を巻き込むとき、最年少の子どもが最大の影響を受け、最も弱い立場に立たされる。

の債務を増やしている。

その理由の一つは暴力やその脅威である。世界の無数の子どもの生存、成長、発達の権利が途絶えることのない暴力に脅かされている。子どもは家庭でも毎日のように暴力や虐待にさらされ、その犠牲になり、国際的には経済制裁が乳幼児の命を奪い、現代の戦争の恐怖のもとで無数の子どもが殺され、生き残った子どもも恐怖の記憶に悩まされている。

その理由の一つはHIV/エイズが毎年200万人以上の成人の命を奪い、子どもたちは身近な保護を失い、毎日、何千人もの子どもが孤児になっていることである。HIV/エイズの流行は世界的な緊急事態で恐ろしい影響を与え、世界のすべての地域で大人と子どもの命を奪い、生き残った子どもは親や祖父母、叔父や叔母、兄弟、教員、保健員なしに暮らしていかなければならなくなっている。

エイズはすべての大陸を脅かし⁽²⁰⁾、アフリカでは1998年だけで220万人がHIV/エイズで死んだ。1999年にはウクライナで約25万人がHIVに感染した。ラテンアメリカとカリブ海地域では170万人が感染し、そのうち3万7600人が子どもであった。アジアでは1999年末現在、20万5200人の子どもを含む610万人がHIVに感染している。

貧困が幼い子どもに与える影響

貧困が家族を巻き込むと、最年少の子どもが最

重いマラリアでイファカラ(タンザニア)の聖フランシス病院に入院した生後16カ月の息子のベッドわきで容体を気遣う母親。



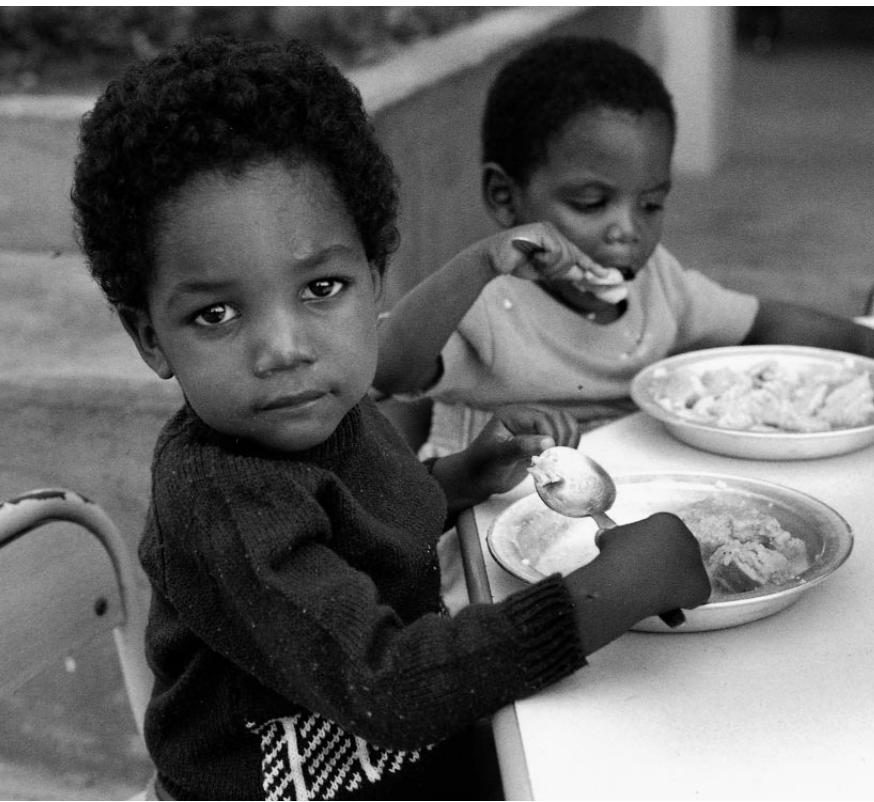


Photo: Angela

大の影響を受け、最も弱い立場に立たされて、その生存、成長、発達権利が脅かされる。開発途上国で生まれる子ども10人のうちの4人が、極貧のもとで暮らすことになる⁽²¹⁾。

貧困は栄養不良やきれいな水の不足、不衛生な環境から平均余命に至るまでの子どもの存在のすべての側面を決定付ける。貧困は無数の子どもの予防可能な死の背後の主な原因になり、子どもが栄養不良になり、学校に行けず、虐待され、搾取される理由になっている。子どもの権利が広く侵されることの核心には貧困がある。

貧しくて教育を受けていない親は子どもに最適のケアを提供するために必要な知識がなく、子どもが病気にかかったり、死ぬ危険を高めている。学校教育を受けていない母親の子どもは、初等教育以上の教育を受けた母親の子どもに比べて、最初の誕生日を迎えるまでに死ぬ可能性が2倍にもなる⁽²²⁾。

貧困の原因や結果としての栄養不良は2歳未満の子どもにとくに深刻な影響を与える。幼い子どもの心身に生涯にわたる回復不能の傷を残し、

貧しく栄養不良の子どもは呼吸器感染症や下痢、はしかなど予防可能な病気にかかりやすく、必要な手当ても受けられない。タンザニアには、5歳になるまでに死ぬ子どもの80%が病院に行けないで家で死んでいる地域さえある⁽²³⁾。

開発途上国だけではなく、先進工業国にも貧困地域がある。EU(欧州連合)加盟15カ国の約300万人が定住する家を持たず⁽²⁴⁾、米国では子どもの約17%が必要な栄養を摂取できない⁽²⁵⁾。先進工業国のいたるところで父母が子どものためのサービスを求めている。

貧困は幼い子どもの生存や健康の権利だけでなく、子どもの社会心理的、情緒的、精神的発達の権利にも深刻な影響を与える。開発途上国でも先進工業国でも貧困が機能不全の家庭の増加と相まって、最も幼い子どもが愛情こまやかな世話や心遣いや健全な発達に必要な刺激やケアを受けられない⁽²⁶⁾。

貧困の悪循環は一つの世代にはとどまらない。貧困のもとで生まれた女の子は早婚で、思春期に子どもをもつことが多い。栄養不良の女の子は栄養不良の母親になって体重不足の子どもを産む。貧しい子どもはその親と同様に貧困を次の世代に引き継ぐ可能性が高い。

貧困には単一の指標はなく、貧困は常に容易に数量化できるわけではない。所得での貧困だけに着目すると、差別や社会的排除、尊厳の喪失など、貧困の測定できない側面が見落とされる。

たとえばヨーロッパ全域でのロマ人への差別はロマ人の貧しさをより深刻にしている。ロマ人の平均寿命はヨーロッパで最も短い。旧チェコスロバキアのロマ人の1991年の乳児死亡率は他と比べて2倍を超えていた⁽²⁷⁾。

貧困は世界の無数の幼い市民から教員や医薬品、トイレ、場合によっては食糧やきれいな水さえ奪って、毎日のように子どもの権利を侵している。他にも数知れない子どもが家族の借金を返すために奴隷的な労働に売られ、家族に金がないため捨てられて施設に収容されている。都市のスラムの門口に捨てられたり都市のアパートの一室に放置されて、人目につかないまま飢えている子どももいる。

**暴力は世界の
ほぼすべての
先進工業国と
開発途上国で
保健問題の一つに
なっている。**

女性への暴力が幼い子どもに与える影響

暴力はほぼすべての先進工業国と開発途上国で人々の命を奪い、傷害や障害をもたらす、身体的、心理的な傷を残し、その一部は決して癒えることはない。貧しい人々は暴力の犠牲者や加害者になりやすい。女性と子どもはしばしば、複雑な経済的、政治的、社会的、文化的理由で世界各地で増えている憎悪や攻撃の波の目標になりやすい⁽²⁸⁾。

暴力は女性の暮らしのすべての段階で女性の権利を侵すので、乳幼児は二重に暴力にさらされる。第1は直接の暴力を通じて、世界の一部、とくに南アジアでは暴力が組織的な女子の胎児、嬰兒殺しの形をとっている⁽²⁹⁾。他の地域では子どもへの暴力はこうした形をとることは少ないが、栄養のある食事をとれないことや保健ケアや就学の機会が少ないことが幼い子どもの静かな死を意味し、女の子や障害児がとくにその危険にさらされる。

第2は、乳幼児が母親を通じて間接的に影響を受けることで、不平等や虐待による女性の無力さが乳幼児を脅かしている。妊娠中の女性の健康や栄養状態の悪さ、出産時の不適切なケアや新生児のケア不足が、毎年約800万件以上の死産や新生児の死を引き起こしている⁽³⁰⁾。ニカラグアでの調査では、パートナーによって性的、身体的に虐待された母親の子どもが5歳になるまでに死ぬ可能性が、そうでない子どもの6倍に達することが分かった。虐待された母親の子どもは栄養不良に陥りやすいだけでなく、予防接種を受けたり、下痢のときにORT(経口補水療法)による治療を受けることも少ない⁽³¹⁾。

家庭内暴力: 家庭内暴力は健康問題であり、法的、経済的問題であり、教育や発達上の問題であり、なかでもとくに人権問題であり、文化、階級、教育、所得、民族、年齢を問わずにみられる。比較的目立たず、無視されているが、家庭内暴力は女性や女子に対する最も一般的な形の暴力で⁽³²⁾、米国だけでも毎年、推定200万~400万人の女性が夫に暴力を振るわれている⁽³³⁾。

家庭内暴力は子どもの生存を危うくするだけでなく、虐待を目撃し、虐待された子どもは健康を損ない、問題のある行動をするようになる。それらの



UNICEF/P99-0057/Lemoyne

旧ユーゴスラビア・マケドニアの 幼い難民

1999年3月に戦火に引き裂かれたコソボから36万人の難民が安全を求めて隣の旧ユーゴスラビア・マケドニアに逃れた。その約半分がマケドニアの家庭に保護され、住居や食糧を与えられたが、難民を受け入れた家庭の中には100人ものが一つの屋根の下で暮らすようになった場合もあり、家庭環境が悪化した。多くの人が突然、困難できびしい環境のもとで暮らさなければならなくなり、なかでも最も幼い子どもが最も不利な立場に置かれた。

学齢期の子どもは学校に通った。教室は間に合わせのもので狭かったが、混乱した子どもの暮らしに中心となる活動を与え、正常さの意識を取り戻させることができた。だが幼い子どもは過密な場所で、戦争で心の傷を負った子どもをケアするためのエネルギーをほとんど失った親 - - ほとんどの場合母親 - - の手に委ねられた。

ユニセフとアルバニア人女性連盟 - - マケドニアのアルバニア人女性のNGO連合体 - - は1カ月以内に危機の最大の影響を受けた7つのコミュニティで緊急プロジェクトを開始した。約150人のボランティアがコミュニティの仕事や家庭訪問、グループの集会、子どもの発達について訓練を受けた。難民と受け入れ家族 - - 9000人の子どもをもつ6500家族 - - の双方に、危機のもとでの育児に関する情報や物資が届けられた。

この緊急プロジェクトによって、困難な生活条件にもかかわらず子どもへのケアを改善することができた。社会心理的カウンセリングを必要とする人を見つけ、専門家に送る手段も提供することもできた。難民がコソボに帰還したあとで、このプロジェクトは同じコミュニティ - - ほとんどが農村地域 - - で、マケドニアの子どもと家族のニーズを満たすように手直しされ、育児の改善とともに女性のエンパワーメントを通じて、女性を家族やコミュニティの意思決定の積極的なパートナーにする手段になった。

プロジェクトに対する反響や強い関心に力づけられて、アルバニア人女性連盟とマケドニア人、ロマ人、セルビア人、その他の少数民族グループの女性NGOの連合体である女性団体連合と協力して、このプロジェクトを全国に拡大するための計画が立案された。新たに32の地域訓練・調整センターが設けられ、玩具や絵本を備えた図書館も設けられた。このプロジェクトは現在、650以上の村をカバーし、推定7万人の子どもにサービスを提供している。



UNICEF/93-1196/Andrew

マラウイの育児習慣

マラウイでは子どもの約15%がHIV / エイズで親を失って孤児になり、病気や深刻な貧困が若い子どもをケアする家族やコミュニティの能力を損なっている。

国民の85%が暮らす農村地域の子ども90%以上が、子どもの生存、発育、発達を強化するための何らかの形の組織的な幼児ケアを受けることができない。

マラウイ政府とユニセフは1999年に0～3歳児のための活動を強化し、中央政府のレベルで政策を立案し、ガイドラインや訓練基準を作成した。地方自治体レベルでは要員が訓練され、地域の行動計画が立案された。その結果、成功を示す最初の兆候として、子どものケアサービスの需要が高まった。コミュニティを中心とした保育センターの数はなおごく少ないが、需要が急増し、幼児とその家族のニーズと権利に焦点を絞ることのメリットが目に見え始めた。

地域のプロジェクトは家庭訪問のモデルを採用し、コミュニティのボランティアが保護者や委員会の委員になっている。プロジェクトは女性のケア、母乳育児と補助給食、食品の調理、社会心理的ケア、衛生、家庭の保健の6つの育児法に焦点を絞っている。

多くの地域が絶望的な貧困に苦しんでいるにもかかわらず、多くの地域住民が食糧を提供し、コミュニティの菜園で働いたり、その他の所得活動を行ってセンターに必要な資金を集めている。

このプロジェクトに参加している政府やNGO、ユニセフなどのほとんどすべての機関が、幼児ケアの技術能力を高めるための手段や資金を求めている。実現が待たれているものとして、カナダのピクトリア大学によるECDバーチャル大学の設置案がある。

子どもの権利は、頼るべき保護者からのいわれのない攻撃によって侵される。性的な虐待を受けた子どもは心に傷を残して、子どもの健全な発達に不可欠な信頼や親交関係を結ぶことができなくなる⁽³⁴⁾。

女性と子どもが最も安らぎを感じない家庭のなかでしばしば最大の危険にさらされるのは、悲劇的な皮肉というほかはない。女性に暴力を振るうことは子どもに暴力を振るうことと同じで、暴力を見て育つ子どもに破壊的な行動や否定的な役割モデルが引き継がれて、暴力の悪循環の輪が恒久的なものになる。

マルサ、アンジェラ、コルマン、グレースの4人も暴力の多い家庭で暮らす他の子どもと同様に、家庭内暴力の犠牲になる恐れがある。6歳のコルマンはすでに、父親とは暴力を振るうものだと思うようになっていくかもしれない。暴力の悪循環の輪は早期の介入を通じてのみ、断ち切ることができる。明らかに、男女の力関係を変えることが子どもにとってプラスになり、子どもの早期ケアプログラムに男性を加えるタンザニアの努力は理にかなっている。女性に対する家族やコミュニティの態度が変われば、生後9カ月のグレースも生涯にわたる殴打や差別から救われるかもしれない。

武力紛争が若い子どもに与える影響

世界では毎日、20以上の武力紛争が続いており、その大部分が貧しい国で起きている⁽³⁵⁾。戦争は心に傷を負わせ、少なくとも日々の暮らしや仕事を破壊し、それにもまして子どもの権利を侵す。過去10年間だけでも200万人の子どもが殺され、600万人の子どもが重傷または回復不能の障害を負い、1200万人が家を失った。推定では、武力紛争の死者や負傷者の80～90%が民間人で、その大部分が子どもとその母親である⁽³⁶⁾。20世紀最後の10年間に、100万人以上の子どもが武力紛争で孤児になったり、家族から引き離された⁽³⁷⁾。

最近のシエラレオネ、スーダン、北部ウガンダなどでの戦闘では、子どもが家族が拷問され、殺されるのを目撃し、チェチェン(ロシア)では子どもが何度も爆撃や砲撃にさらされた。1994年のルワンダでの虐殺では、25万人の子どもが殺された。1999年にはコソボの子どもが「民族浄化」で家を

追われて、家を失い、家族から引き離され、慣れ親しんできたすべてのものを奪われた。

安定した豊かな社会の親たちは、モーツァルトとブラームスのどちらが幼い子どもの脳の発達をより刺激するかについて議論できるかもしれないが、紛争地域の親たちは乳児を抱えて、爆弾や小銃の音に脅かされる。研究調査では、優しく話しかけた「マザーリーズ(お母さん言葉)」が幼児にいい影響を与えることを立証できるが、野放しの戦火のもとにある幼い子どもに何が起ころかはただ推測できるだけである。

戦争の非人間性に耐えた子どもは外傷後ストレス障害という傷を負うことがあり、この心の傷が発達を妨げる。3歳未満児の場合は、重い精神的な外傷が情緒的な傷を残すだけでなく、脳の働きを永久に変えることがある⁽³⁸⁾。そのため戦争の若い犠牲者はとくに身体的、心理学的ケアを必要とする。体の傷をいやすことによって子どもは戦争を生き延びることができ、子どもの心をいやすことによって次の戦争を防ぐことができる。

平和地帯と子どもにやさしいスペース: 交戦地帯の子どもは耐えがたい経験に耐え、説明できない出来事を理解することを強いられる。そうした極限状態のなかで、どうすれば乳幼児や家族に生存の基本的な手段である食糧や水や限られた住居以上のものを与えられるだろうか。国際社会は物理的なニーズが明らかに優先するなかでの認知力の発達や心理的ケアをせいたくたさずとも思えない。だが子どもは危機のもとでさえ、食糧や水だけではなく慰めや愛を強く求める。それに応えないと、心の傷を負った子どもは心のなかで時の流れを止めてしまうかもしれない。乳児は外の世界に無関心になり、幼児は恐怖におののいて夜尿症になり、親指をしゃぶり始めるかもしれない。就学前の子どもは悲しみに沈み、攻撃的な態度をとったり、引きこもって話さなくなる。

ユニセフとそのパートナーは子どもの心身を救うために多くの危機のもとで「平和地帯」や「子どもにやさしいスペース」の設置を試みている。ユニセフやその他の機関はスリランカやスーダンなどで交戦各派と交渉して戦闘を中断させて、子どもが食糧や医薬品を手に入れ、予防接種を受けられるようにした。交戦各派は武力紛争にもかかわらず計画通りに子どもの予防接種を行うことを認めた。



UNICEF/94-1333/Salimullah Saif

1994年に首都ダッカでの女性作家タスリマ・ナスリンの作品への抗議中に、怒りのあまり女性の見物人に暴行を加える男たち。



UNICEF/99-0177/Radhika Chalise

若い子どもを背負ってトラックを待つコンゴ難民の女性。女性たちはトラックで国境地域からアルバニア国内の安全な場所に運ばれた。

だが残念なことに常にそうした「平和の回廊」を設置できたわけではなかった。シエラレオネでは昨年、戦闘が再発したため、計画していた4回の「全国予防接種デー」のうちの2回の実施をキャンセルした。

食糧や住居を与えることが、異常な状況のもとで子どもにある程度の正常さの意識を取り戻させる。学校や遊び、カウンセリングがそれを補完する。コンゴでの民族紛争で大量の難民がアルバニアに流入したとき、救援機関はまず医薬品やワクチン、飲料水や食糧を送って乳幼児や妊産婦の死を防ぎ、それらの応急の救命戦略を実施してから「子どもにやさしいスペース(CFS)イニシアチブ」のもとで幼児ケアや就学前教育、初等教育、レクリエーション活動、乳幼児のための社会心理的支援、子どもとその家族のためのカウンセリングを行った。

絵の具を使って絵を描き、積み木遊びをし、踊りを踊る子どものイメージと、恐怖で泣き叫び、傷ついた親のそばにうずくまり、自分の血で赤く染まったシーツのうえに横たわる子どものイメージを重ね合わせるのはむずかしい。だが戦争で傷ついた子どもをケアする保護者は、幼い犠牲者の体の

傷だけでなく情緒的な傷にも配慮することを求められる。

乳幼児から奪う：戦争は高くつく。戦争は国を貧しくし、国の金庫からだけでなく、国民の精神や国の最も弱い市民である子どもから資産を奪う。戦争の組織的な暴力は身体的、情緒的な傷を残すだけでなく、貴重な資源を枯渇させる。幼い子どもによりよい人生を築くために使える資金を破壊に浪費する。たとえば

幼い子どもの暮らしを築くために使える資金が破壊の目的で浪費されている。

エリトリアとエチオピアは最近の国境紛争で武器に何億米ドルもの金を使ったが、その一方でエリトリアでは100万人が、エチオピアでは800万人が飢餓に直面した。

スリランカの内戦はすでに6万人以上の人命を奪い、経済を不況に陥れた。スリランカ中央銀行の報告によると、タミル・イーラム解放のトラ L T T E と多数派のシンハラ系の政府との武力衝突の結果、計画していた中レベルの経済がより低い水準に落ち込んだ⁽³⁹⁾。スリランカ政府は国防予算を7億米ドルから8億8000万米ドルに増やした⁽⁴⁰⁾。戦闘機に金を使うと、子どものために金を使えなくなる。アムハンガンガ村には爆弾もなければ地雷もな



食糧や物資を受け取るための登録を待つ難民キャンプの女性の列のなかであたりを見回す女の子。このキャンプはエリトリア救援委員会が約5万人の国内避難民のためにデューバルワの町はずれに設けたもの。

い。それにもかかわらず紛争でブリアンティの娘や息子のような子どもが大きな影響を受けている。飲料水や衛生施設、ワクチン、教科書、通行可能な道路に使うべき資金が戦闘機に使われたからである。

スリランカのジャフナ半島の交戦地域では戦争の被害がさらに大きい。ここでは子どもとその家族が戦火のもとで暮らし、年長の子は少年兵として徴用された。戦火で荒廃した他の地域と同様に何千人もの子どもが障害を負い、家を失い、孤児になり、あるいは殺された。

民族的、宗教的不寛容の種は子どもが幼いうちにまかれる。だが軍事的破壊に使われる資金のほんの一部ですべての子どもに健全なスタートを切らせるために使われれば憎悪の種子を共感と寛容に変えることができる。子どもはその生涯の早い時期に寛容や暴力によらない紛争の解決法を学ぶことができる。子どもに投資することが膨大な平和の配当をもたらすことになる。

HIV / エイズが幼い子どもに与える影響

世界では現在、15歳未満の子ども130万人を含む3430万人がHIV / エイズに感染している⁽⁴¹⁾。それらの子どもの圧倒的大多数がHIVに感染した母親の子どもで、子宮のなかや出生の前後、あるいは授乳のときにウイルスに感染している。それらの子どもの大部分が生計し成長し発達する権利を脅かされて、10代になるまでに短い生涯を終える⁽⁴²⁾。

HIV / エイズという大火は世界の人口の10%が暮らすサハラ以南のアフリカで最も激しく、世界のHIV感染者の70%、エイズによる死者の80%、エイズ孤児の90%までがこの地域に集中している⁽⁴³⁾。

アフリカの一部の国ではいまや15歳未満児の10%以上が孤児である⁽⁴⁴⁾。世界の1300万人以上の子どもが2001年までにエイズで母親または両親を失うという初期の推定は1999年末に現実のものになった⁽⁴⁵⁾。エイズ孤児の90%がサハラ以南のアフリカの子どもである⁽⁴⁶⁾。

世界では1999年だけで新たに540万人がHIVに感染したが、最悪の事態を迎えるのはまだこれからである⁽⁴⁷⁾。



トルコの効果的な育児

費用が平均的な家族が払えないほど高いので、トルコでは6歳未満の子どもの12%がECDサービスの恩恵を受けているにすぎないが、トルコ政府とユニセフは1994年から協力して、費用のかかるセンターでの就学前教育に代わる家族やコミュニティを中心としたECDシステムの開発に努力してきた。

国内の24県で実施している「母親訓練プログラム」がこのアプローチの一部で、母親と直接、協力するだけでなく、父親や年長の兄弟、祖父母など、その他の家族も幼い子どものためのゲームや遊びに参加している。家族のすべてのメンバーが家庭でのより刺激のある対話による学習環境づくりに貢献したことで、子どもが言語や発達のテストで、よりよい成績をあげるようになった。家庭環境も全体的に改善され、プログラムに参加したある女性の言葉を借りると「いまではもう子どもを叩かなくなり、夫も私を殴らなくなった」。

可能な限り多くの家族にサービスを提供するためにユニセフは報道機関とともに8歳になるまでの子どもの発達をテーマにした「育児改善イニシアチブ」というビデオシリーズを制作した。家で子どもをケアする親のほとんどが幼児の発達上のニーズに気付いていないので、このビデオシリーズはアニメとライブアクションを使って子どもの言語能力や社会的、情緒的、身体的発達、運動能力での幼児の年齢固有の成長について説明し、どうすれば親が子どもの発達を促進できるかについても、子どもと保護者の間の交流の形で実際の提案を行っている。

このビデオシリーズは全国的に放映されて幅広く人々に伝えられ、このビデオにリンクした資料が家族や幼児に直接、接するケアの提供者の訓練に使われている。このビデオシリーズはまた、国内の8万人以上の母親が参加する「母親訓練プログラム」の重要な要素の一つになっている。

写真：トルコ西部のグルクク町 - - 1999年のトルコ地震の震源地 - - の倒壊した建物のがれきのなかに落ちていた幼い女の子の写真。

ラテンアメリカ・カリブ海地域の子どもと青少年のための著名人委員会、2000年9月。



UNICEF/Argentina/Rey

私たちが不徳の時代に暮らしていることは、子どもがいかに無視されているかをみればはっきりと分かる。そうした受け入れがたい現実、「価値が何の価値でもなくなった」というニーチェの言葉が真実味を帯びるような渦のなかに私たちを巻き込んでいく。

世界で2億5000万人以上の子どもが搾取されているのは人類にとって恥であり、犯罪である。

私たちは子どもが残飯を求めてごみをあさり、暗闇のなかで寝る場所を探しているのを目にしている。なんと恥ずかしいことだろう。私たちはどうしてそんなことを許してきたのだろう。子どものなかには売春を強いられるものもいる。まだ5歳か6歳という幼い子どもが不潔な仕事場で毎日、長時間、つらい労働を強いられることもある。幸運にも何セントかの賃金をもらえる子どももいるが、多くの子どもは奴隷のような条件のもとで法的、医学的保護もなしに働き、伝染病にかかり、けがをし、手足を失い、あらゆる虐待に耐えている。

そうした子どもは世界の大都市や最貧国

にみられ、ラテンアメリカでは1500万人もの子どもが搾取されている。私たちの町でも子どもがわずか100～200米ドルの金で殺されたり、誘拐されて殺され、その臓器が世界の研究所に売られたりしている。

私たちがそれらの子どもを計り知れない苛酷な苦しみに追い込んでいる。世界の街頭でのそうしたあからさまな傷は私たちの人間性が侵食されていることの証しにほかならない。

子どもたちはあまりにも虐待されているので、私たちはそれらの子どもの眼の中に本来あるべき無邪気さではなく、親もなしに幼児期を過ごさなければならぬものの恐怖や永遠の深い不信の念を見出だす。それらの子どもは家族の保護どころか、だれの保護も受けられず、世界中の大人はどうすることもできないそれらの子どもを冷ややかな目で眺めている。幼いときのそうした恐怖がその後の生涯に傷跡を残す。

それらの子どもは、可能性に満ちた将来を思い描くことのできる人たちが経験する、すばらしい感覚を想像することさえできない。

現代社会の遺棄された子どもはあまりにも虐待されて何も信じなくなっている。そしてだれもが彼らに尊厳のある暮らしを保障できないでいる。

私たちは社会の不正を黙って傍観し、受け入れることはできない。社会が成し遂げた唯一の奇跡的な成果は世界の富の5分の4以上をとにかく世界の5分の1の人々の手に集中したことだけで、その一方では世界の無数の子どもが最もみじめな窮乏のもとで飢えて命を落としている。

私たちが世界の指導者の一人ひとりに対して自らが行った約束を果たすことを呼びかけ、乞い、要求しているのもそのためである。私たちは子どものケアは単なる片手間の仕事ではなく、つまずきながら進む人類が立ち直るための唯一の必須の道であることを理解しなければならない。

子どものケアを奨励すること以上に価値のある努力はない。私たちが世界の子どもたちのためにできることはどんなことでも、いまずくに行行しなければならぬ。政府は私たちの運命が世界の幼い子どものケアにかかっていることを理解すべきで、そうすることが民主主義の強化と人間の未来にとって不可欠である。

人間性を無視して力を行使することが武器では戦えない種類の暴力を生みだす。そうした暴力に打ち勝つことを望むなら、連帯の意識をさらに強める必要があり、世界の指導者が子どもの福祉に配慮し、子どもを守り、子どもが兄弟姉妹と力を合わせて人間の崇高さに値する世界を構築できるようにするという重要な仕事を責任をもって成し遂げることが至上命令になる。

私たちに子どもを眼をみてそれに答える義務がある。それが悲しみに満ちていることは、私たちの人間性を問われるような罪である。

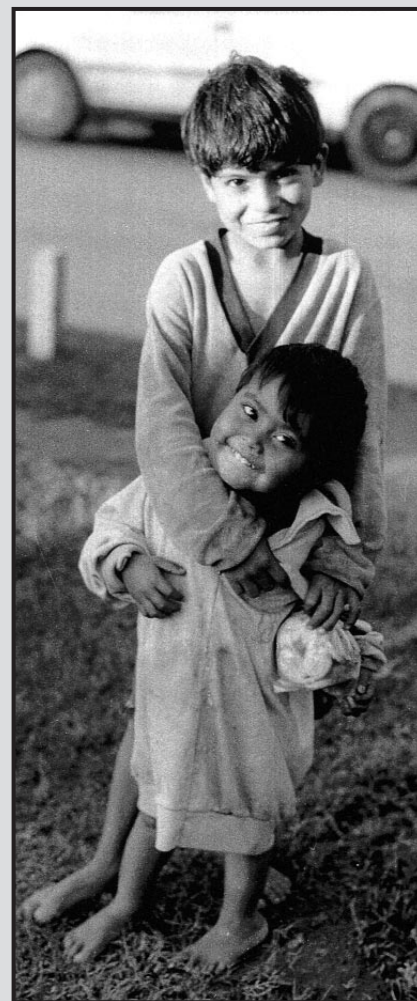
「私たちはみな、みんなの前で、すべての人、すべてのことに対して罪がある」というドストエフスキーの言葉を心にとどめて、幼児期に必須のケアを受けられない世界の子どもの権利を守るために前進しよう。

私たちはその責任を逃れることはできない。

それらの子どもたちは私たちの子どもであ

り、いわば私たち自身でもある。それらの子どもたちが私たちの闘いの第一の動機になり、私たちの努力の核心にならなければならない。

エルネスト・サバトはアルゼンチンの核物理学者、ヒューマニストで、小説家としても国際的に評価されている。



UNICEF/Argentina/Rey

写真：(左)メシテンシア(アルゼンチン)の保健センターで検査を待つカーラちゃん。(上)ブエノスアイレスの街頭で。

キリマンジャロからそう遠くないタンザニアのシリンジョロ村の長老で村の相談役をしているフェリシア・ムボニカは、エイズがどんな荒廃をもたらしたかをよく知っている。カラフルな服を着たこの肉づきのいい女性は落ち着いた表情で、絶望を隠している。ムボニカはアルーシャからキリマンジャロに通じる大通りに面した小さい家のなかに座って、次々と近所の家に甲問に行っていると語った。股関節炎だけではなく、重い心が彼女の歩行を困難にしている。彼女が暮らしている地域には約300世帯あるが、彼女が知っているだけでも今年になって15人がエイズで死んだ。

ムボニカは「私たちは毎週のようにだれかを埋葬しています。私はこの国の未来が怖いのです。死んでいくのは若者で、次の世代を担うはずの生産的な人々だからです」と語った。

彼女は正しい。エイズは人生の絶頂期にある人々を打ちのめして、アフリカを疲弊させている。学校は教員を失い、診療所は保健員を失い、企業は従業員を失い、子どもは親を失っている。

ムボニカは自分の村のエイズについて数字をあげて説明した。成人した子どもをもつ母親であるムボニカは過去数年間に、村の2つの家族が死に絶えるのを目のあたりにした。まず母親が死に、幼児が死に、もう一人の子どもが死に、最後に父親が死んだ。順番は異なるが、第2の家族についても同じことが起き、家族が次々に死んでいった。

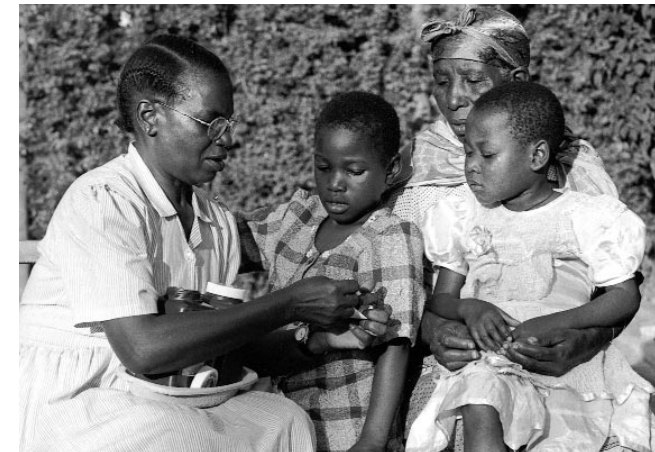
彼女の家から道路沿いに少し行ったところに軒の家があり、ムボニカによると、その家の両親もエイズで死んで、いまでは子ども4人だけの世帯になっている。最年少の子どもは4歳で、あとの3人は小学校に行っている。最年長の兄は19歳で、幼い弟たちを世話できず、妻の手を借りるために結婚した。

こうした話はタンザニアには限らない。アフリカ中の家族や村や都市や国でエイズによる同様な破滅的な無数の死の物語が語られている。

貧困がエイズ危機をあり、エイズが金庫を空にして、この疫病と経済がマイナスに作用し合っている。HIV / エイズ関連の治療とケアのコストは2005年には、エチオピアで政府の全保健支出の3分の1、ケニアで2分の1以上、ジンバブエで約3分の2を占めるようになると考えられている⁽⁴⁸⁾。

エイズは国の予算に大きな負担をかけているだ

母親が死に、
幼児が死に、
もう一人の
子どもが死に、
最後に父親が
死んだ。



モロコシ、タンザニアの国内NGOのファラジャ・トラストが設けたセンターで、エイズ孤児になった5人の孫のうちの2人とともに医療相談を受ける祖母。



家庭とコミュニティのレベル

病原体、媒介動物、保菌者
排泄物中の細菌、媒介動物(蚊、ねずみ、浮遊病原体などを含む)

汚染化学物質
(農薬、化学肥料、産業廃棄物など)

天然資源の不足
(食糧、水、燃料など)

物理的危険
屋内(屋内での負傷など) 屋外(交通事故、洪水、地滑りなど)



家庭、コミュニティ、およびより広範なレベル

人為的な環境の諸側面
(加鉛塗料、サービスや保安の不備など)



コミュニティとより広範なレベル

天然資源に関する悪化
(土壌浸蝕、森林伐採、大気や土壌、水質の汚染)



国と世界のレベル

健康と福祉に間接的だが長期的影響を与える環境問題
(エネルギー資源の枯渇、生態系の破壊、地球温暖化、オゾン層破壊など)

資料：D・サッターズウェイトほか、『子どものための環境：子どもと親を脅かす環境上の危険を理解し、行動する』、アーススキャン出版とユニセフ、ロンドン、1996年から引用。

けでなく、アフリカ社会のバックボーンである親族関係や大家族のネットワークにも打撃を与えてきた。成人の26%がHIVに感染しているジンバブエでは⁽⁴⁹⁾、農村の3つのコミュニティで政府が調査した結果、1万1514人の孤児のうちの1万1000人以上が親族の世話を受けていることが分かった。保護者の大部分は50歳以上の貧しい未亡人であった⁽⁵⁰⁾。エイズ孤児の急増が家族の精神的、経済的資源を消耗させている。コートジボワールでは家族の1人がエイズにかかると、世帯所得が平均して52～67%減少し、保健のコストが4倍に増えている。世帯所得が激減し、患者の介護費が急増すると食糧の消費が減少する⁽⁵¹⁾。

HIV / エイズ孤児：親がエイズで死んだり死の床にあって必要なケアや愛情こまやかな世話や心遣いができなくなると、子どもは栄養不良になり、学校に行けず、年齢以上の責任を負わされるた

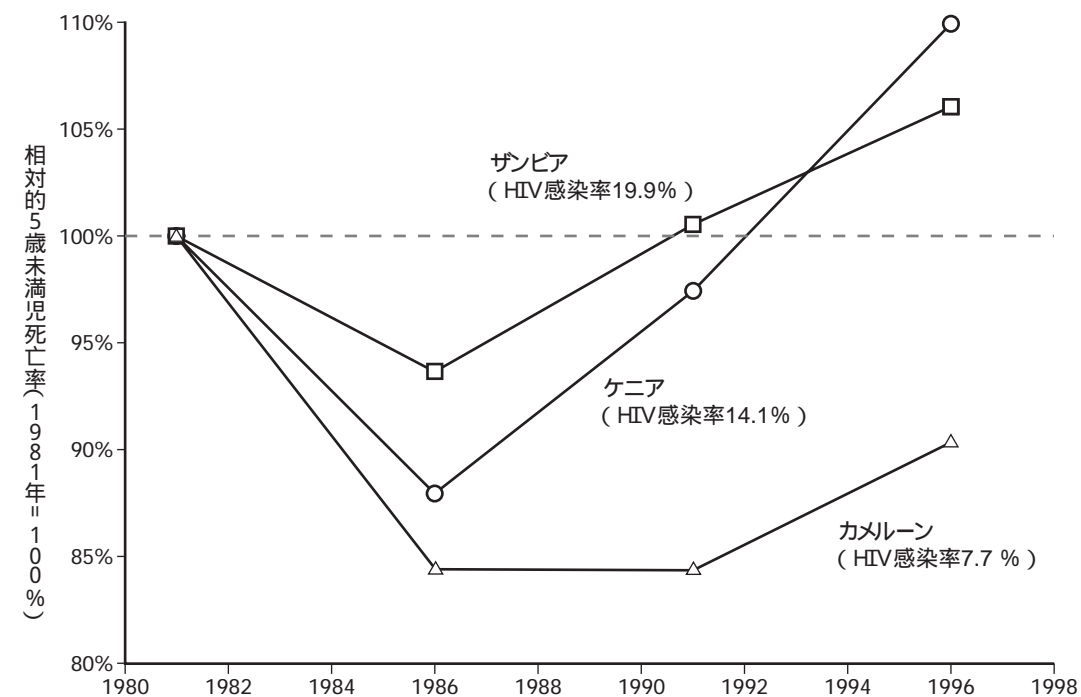
幼い子どもの暮らしがそっけなく放置されると、国の繁栄が損なわれる。

めに、発育し、発達する権利が侵される。ザンビアでの調査によると、都市の孤児の32%と農村地域の孤児の68%が就学していなかった⁽⁵²⁾。子どもはエイズ孤児になると、HIVに感染する危険が高まる⁽⁵³⁾。エイズ孤児は情緒的に傷つきやすく、危険な性に慰めを求めることが増える。金銭的に困窮し、生きるために売春に走って、搾取される可能性も高まる。

家族や村、コミュニティ、国はHIV / エイズ危機の重圧にもかかわらず前進を遂げてきた。多くのコミュニティが絶望に屈することなく、勇気と工夫で危機に取り組んできた。

悲劇の結果、幼い子どものために最も勇敢な努力がなされ、アフリカのいくつかの国が子どもの生後数カ月から数年間の時期の重要性を認めて、エイズの流行のなかで乳幼児のケアに取り組んだ。

図7 HIVと5歳未満児の死亡率(アフリカの一部の国)



注：HIV感染率は1999年末の成人の数字。

資料：UNAIDS、『HIV / エイズの世界的流行に関する報告：2000年6月』、図8を引用。

たとえば1994年から1999年の間にエイズ孤児の数が5倍に増えたナミビアでは、政府とユニセフが保育センターに器材や物資を提供して、孤児に無料のサービスを行えるようにした。センターはピット式のトイレや防水シート、クレヨン、紙の提供を受けてすべての子どもが使えるようにし、孤児が必要なケアを受けられるようにした。無料のデイケアが保証されたので、村の家族も孤児を養子に引き取るようになった⁽⁵⁴⁾。

悪循環を断つ

貧困、暴力、病気の悪循環を断ち切るために、子どもの人生の早い段階で手を差し延べる必要があり、介入は早ければ早いほどよい。ECDは子どもが充実した生産的な暮らしをし、国が前進するための鍵になる。民主主義が人間開発の序曲になるように、健康 - - 言葉の完全な意味での健康 - - な子どもは国の発展の基礎になる。国のなかでいつまでも不平等が続くと、その重みが積み重なって、一見、強固に見えるときでさえ国を不安定にする。一つの国のなかでの不公平が国と国との間のバランスを覆す。貧しくて栄養不良で不健康な子どもは、国を貧しく無力にし、より強い国のなすがまにさせる。幼い子どもの暮らしが放置されると、国の繁栄が損なわれる。

国は子どもが幼い時期に投資することによって、子どもや家族だけではなく、持続可能な開発という大目的にも貢献することができる。子どもに投資することが、国の指導者がなし得る最も先見の明

のある決定になる。

飢餓や病気や無知は持続的な経済成長や民主主義や人権尊重の基礎にはなり得ない。すべての子どもが人生のいいスタートを切れるようにすることが、人間開発を妨げる暗い影を払ううえで役立つ。

いま必要なのは子どもの権利への新たなコミットメントであり、どうすれば世界を子どものためのものにできるかというビジョンであり、可能なすべてのことをして各世代を悲惨な暮らしに縛り付けてきた綱を解き放つ勇気である。